

カシタケ

キノコ昔話

腰野文男
fumio koshino

カシタケを探す

日記を見ると昭和24年4月とあるのでもう大分昔になるが近所に住んでいた当時キノコ好きで有名だった元佐原市長をしていた坂本斉一さんから「カシタケ採りに行こう」とお誘いを受けた。その日は元佐原市の市会議員をしていたひさんも同行したので一行は3名となった。近隣の山々に詳しい坂本さんのことシイ、カシ林のうちアカガシの混じっているような山々をまるで自分の家の山のように案内してくれたのである。あちらの山こちらの山とシイ、カシ林をしばらく探し歩いていたので疲れたなと思っている頃であった。坂本さんが「あったぞ」と大声をあげた。「出てましたか」と近寄って見ると坂本さんの指さすところにカサが淡黄色をした10数個のキノコが落葉の堆積した上に群生していた。春さきのキノコのない時期のせいもありその時はこれがカシタケだと疑いもなくそう思ってしまった。その日は、他に収穫がなく採れたカシタケは夕食の材料にとUさんのお宅に置いていくことになりその中から研究用といって2~3個いただいて帰宅したのである。その頃私は野生植物に興味を持っていて毎晩のように採集した植物を当時県立佐原高等学校の生物担当の講師をしていた小林鄰先生のお宅に持つていっては名前を教えてもらっていた（先生は植物にも精通しキノコは外国書をとりよせ独学で勉強し川村清一博士の指導を受けておられた）その晩も早速採れたキノコを先生にお見せしたところカシタケの写生図を出され「これはカシタケではなくシメジのなかまのキノコだと思う」とおっしゃり食毒は不明という事であった。そうなるとどうもUさんのお宅でもしや食べてしまったのではないかと心配になり電話で連絡したところ「何だか心配だったので食べずに捨ててしまいました」という事でおやおやと思いながらも一安心したことを今だに記憶している。

カシタケとの出会い

そんなことがあってからしばらくはカシタケの事を忘れていたがその翌年の4月末の事、何せ若いの



で未知のキノコに対する探究心も旺盛で小林先生に見せていただいた写生図をたよりに近隣のシイカシ林を再びカシタケを求めて探し廻ったのである。その日はいくら探し歩いても肝心のカシタケは見つかなかったがそれでも何とか見つけようとシイカシの落葉の堆積したところをしらみつぶしに調べていった。そのうち白い菌糸の束がその上を走っている事に気づいて、もしかしたらこれはカシタケの菌糸束かなと一瞬思いつつもその日は目的のカシタケはとうとう見つからず帰宅してしまった。しかし見つけた菌糸束の事が気になって頭から放れない。数日後再び菌糸束を見つけたシイカシ林に出かけていった何とそこにはベニタケによく似たキノコが発生しているではないか、小林先生の写生図にそっくりなキノコである。これがカシタケに違いないと小おどりしながらあたり一面をよく見直してみると、あるある数個所に群生していたのである。よく観察して見ると幼菌はカサがまんじゅう型で表面にかなり粘性がある成菌はカサが次第に扁平となり直径が2~5cmでカサの色は淡紅色で真ん中がクリーム色のもの全体がクリーム色のものクリーム地に淡紅色の斑のあるものなどいろいろある。ヒダは離生して白色をしていると当時の野帳にも記されていた。その日の夜例によって持ち帰ったキノコを小林先生にお見せしたところ「これはカシタケに間違いない」といわれその嬉しかった事は今でも忘れることは出来ない。その晩のうちに採つたカシタケを試食した事は申すまでもない。豆腐とネギを入れてつ

くったカシタケの吸い物はよくダシが出て思いの外美味しく春の珍味であろうか。その翌日残しておいたカシタケを水彩画用の絵の具を使って写生したのが別掲の下手くそな図である。これがカシタケとの始めての出会いであった。

カシタケの古い写真

わが家のキノコアルバムの中にカシタケの古い写真があった。一つは近所のカシタケ採りの名人といわれたSさんが100個あまりのカシタケを採ってきた時に写させてもらったものである。カサの色に紅色・淡紅色・クリーム色・紫色などいろんな色のある事がよくわかる。もう一つは県立中央博物館の準備室時代にカシタケ採りのベテランであるTさんに案内していただき吹春さんと一緒に撮影した時の生態写真である。菌糸の太い束がよくうつっていた。

地方図鑑にあるカシタケ

天保6年紀州藩坂本浩然の著した菌譜にカシタケ・カシコ（状チ占地ニ似テ蓋厚ク色淡褐裡白色軟骨軟滑甘香口ニ可ナリ）とあり図があるがただ図があまり簡単過ぎて今のカシタケと同一種であるかどうかよくわからない。近年になって各地方からキノコ図鑑が続々と出版されるようになってきたがその中の茨城のきのこ1984・11・5に写真入りでカシタケの事が出ている。平成8年（1996年）7月15日に発行された石川のきのこ図鑑にはカシタケ（櫻茸）茨城県の地方名として兼六園のウラジロガシの樹下に群生していた事が出ていた。昭和59年（1984年）11月3日に発行された九州のきのこには、かしなば（地方名）*Russula sp.*の記事があり（学名のないかしなばという標題でキノコ余話がで

いた。写真もカシタケによく似ているので過日ハラタケ目の権威者である本郷次雄博士が出になつたときその事を伺つて見たところ「カシタケとは別種でやはり不明種である」という事であった。他の地方図鑑は調べて見たが出ていないところを見るとカシタケはやはり茨城・千葉など特定の地方にしか発生しないキノコのようである。このカシタケと始めて出会った時の話も同行した坂本さんもUさんも教えてくれた小林先生も案内してくれたTさんもすでに故人となつてしまい今では遠い遠い昔の話になってしまった。

